

平成24年度

事務事業評価表（平成23年度の実績評価）

記入年月日
平成 24 年 4 月 1 日

Table with columns for 事務事業名, 区分, 事務事業No., 課内No., 政策体系, 総合計画の施策名, 政策名, 施策名, 基本事業名, 財務会計上の位置付け, 事業期間, 単年度のみ, 単年度繰返し, 期間限定複数年度.

【Do】 1. 事務事業の現状把握 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入

事務事業の概要（事務事業の内容、担当者が行う業務の内容、手順、事業費の内訳等。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

【事務事業の内容】 市内に在住する4歳から5歳の幼児を、土日・祭日等を除く平日に預かり、8時15分から15時まで幼児教育を実施している。具体的には、健康・人間関係・環境・言語・表現の5つの領域について学ぶ。
【担当者が行う業務の手順】 幼稚園教育要領に基づき、幼児期に相応しい環境の中で、遊びを通して自主性や創造性を育て、義務教育以降の基礎を培う。
【事業費の内訳】 報酬(園医・園歯科医・園薬剤師)360,000円、嘱託職員報酬(通園バス運転・施設管理等1人)1,760,000円、一般非常勤職員報酬(教育補助2人)、2,081,000円、幼稚園評議員報酬(4人)36,000円、臨時職員(クラス担任1人)、報償費(講師謝礼・運動会記念品代等)251,250円、需用費(消耗品・燃料費・光熱水費・修繕料等)3,317,000円、役務費(電話料・ピアノ調律料・砂場検査手数料等)404,000円、委託料(清掃業務・夜間警備・浄化槽維持管理・電気工作物保守点検・通園バス運転業務委託料等)6,041,000円、備品購入費(石油ストーブ等)617,400円が主なもの。

Table with columns for (1) 事務事業の目的, ①手段, ②対象, ③意図, ④結果, ⑤活動指標, ⑥対象指標, ⑦成果指標, ⑧上位成果指標, 単位.

Table with columns for (2) 指標値の推移, 区分, 単位, 20年度(実績), 21年度(実績), 22年度(実績), 23年度(実績), 24年度(計画), 25年度(計画), 28年度(目標).

Table with columns for (3) 投入量(事業費)の推移, 区分, 単位, 20年度, 21年度, 22年度, 23年度, 24年度, 25年度, 28年度, 期間限定総投入量.

(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 昭和52年4月に真壁町立まかべ幼稚園として創立され、平成17年10月の合併以降も桜川市立まかべ幼稚園として引き続き実施している。

(5) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 教育基本法が平成18年12月に改正、平成19年6月には学校教育法が改正され、学校種において幼稚園が一番最初に位置づけられた。

事務事業名	まかべ幼稚園運営事業	事務事業No.	30143005	所属課	まかべ幼稚園
-------	------------	---------	----------	-----	--------

【See】 2. 評価の部 * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

評価項目	
目的 妥当性	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか? 意図することが結果に結びついているか?) 基本計画の施策に幼児教育の充実が謳われており、個々の幼児に応じた指導を行っている。 <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか? 税金を投入して、達成する目的か?) 義務教育ではないが、公立幼稚園の使命は国が目指す幼児教育に最も近い立場で取り組むことができる。 <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である
	③ 対象・意図の妥当性 (対象を限定・追加すべきか? 意図を限定・拡充すべきか?) 対象・意図とも現状で適切である。 <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である
	④ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか? 成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか? 何が原因で成果向上が期待できないのか?) 当該年度の成果はほぼ達成できたが、研究協議することにより更なる成果の向上余地はある。 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない
有効性	⑤ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?) 幼稚園は義務教育ではないが、平成18年の教育基本法の改正で「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と規定され、その重要性が法的にも明文化されていることから影響は大きい。 <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性がありますか? (市以外の取り組みも含む)) 他に手段がある <input type="checkbox"/> ⇨ 具体的な手段、事務事業名 他に手段がない <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる
効率性	⑦ 事業費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか? (仕様や工法の適正化、住民の協力など)) 事業費は報酬(園医・教育補助)、報償費(講師謝礼・運動会記念品等)、需用費などで削減余地は無い。 <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 (やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? 成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか?) 教育課程の編制や遊びを通じて、幼児教育の実践、職員会議等での振り返り、幼児教育に携わる者の技術の習得や資質向上のための各種研修会への参加など削減余地は無い。 <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない
公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担が公平・公正になっているか?) 入園料、授業料、給食費を徴収しており、公平な負担を頂いている。 <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果 ① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 幼稚園教育要領に則り、教育課程の編制や職員会議等での振り返りをしながらより良い幼児教育を目指している。しかし、現段階での教育方針が良いということでは発展性も無くなり、新たな進歩も無い。それには常に改善心を持ちながら進めていくことが重要であるため、見直し余地はある。																					
(3) 今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 → <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input type="checkbox"/> 現状維持 (複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input type="checkbox"/> 連携ができる	(4) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		○																			
	維持			×																		
	低下			×																		
(3)-1 改革改善策 幼児教育については平成18年の教育基本法の改正で「生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものである」と規定され、その重要性が法的にも明文化された。また平成20年3月に「幼児教育要領」も改訂され、子供達がよく遊び、よく学べるような環境整備を図っていく必要がある。																						
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 幼児教育の中核を担う幼稚園教育において、園児たちが遊びを通していろいろな人とコミュニケーションを図りながら、何事も伸び伸びと楽しんで活動できるよう創意工夫をしていくことが大切ではないかと思う。																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価 課長確認後の評価 B A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合) 確認欄
(3) 2次評価における改革改善案	(4) 2次評価における指摘事項